

研究課題名	A病院におけるRRSコールの現状と課題
研究機関名	日本赤十字社 武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 救命救急センターICU RRS部会 看護師 氏名 中村真依子
研究期間	(西暦) 2025年4月 ～ (西暦) 2025年7月
研究の意義・目的	A病院では2015年より日本院内急変検討委員会のIn-Hospital Emergency Registry in Japan (以下、レジストリ) へ院内心停止の現状とプロセス、アウトカムの情報を提供してきた。この10年で院内のRapid Response System (以下、RRS) を整備し、システムの稼働と院内での全職員に向けた啓蒙活動を行なってきました。しかし、レジストリに症例登録をしてはいるものの、これらの自施設での症例を集計し統計的にRRS症例の実態を調査した研究はなされていません。 RRSには、①起動要素 (afferent limb)、②対応要素 (efferent limb)、③システム改善要素 (patient safety / process improvement limb)、指揮運営要素 (governance / administrative structure limb) の4つの重要な要素を構築する必要があります。自施設での症例を集計し統計的に分析することは、この4つのコンポーネントのうち、③のシステム改善要素に該当し、より効果的で安全なRRS運営を行なっていくうえで重要な要素であると考えます。 よって、本研究では、RRSの重要な要素の一つであるシステム改善要素に着目し、A病院でのRRS症例について統計的にその実態を調査することにより、今後の効果的で安全なRRS運営のための課題を見出すことが目的です。
研究の方法 (対象期間含む)	2020年4月1日～2025年3月31日の5年間において、電子カルテ上のRRSコール要請記録および出動記録からA病院RRSコールの実態を把握すべく、RRS起動状況、患者情報、患者の状態、治療介入内容、患者の転帰のデータを集計し、今後のRRS運営の課題を見出すことを目的とした単純集計になります。
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む) ②利用し、又は提供す る試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	①電子カルテ上の患者情報を利用するがデータは統計的に処理されるため個人が特定されることはありません。 ②2020年4月1日～2025年3月31日までのRRSコール要請記録および出動記録のうち、RRS起動状況、患者情報、患者の状態、治療介入内容、患者の転帰のデータを使用します。 ③研究責任者 ④武蔵野赤十字病院 救命救急センターICU 看護師 中村 真依子および武蔵野赤十字病院 院長 黒崎 雅之
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 救命救急センターICU 氏名 中村真依子 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6771 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525